

あなたのアイデアで
みんなの背中を"ナッジ"しよう！

脱炭素社会を実現するアイデア実践コンテスト

ECOコン

AKITA 2024

目的

地球温暖化は、気温の上昇のみならず、大型台風や豪雨をはじめとした異常気象などの様々な気候変動や、自然災害をもたらす要因と考えられています。

本県においても、記録的な大雨や、「災害級」ともいえる猛暑、記録的な暖冬少雪など、気候変動や地球温暖化の影響が大きく現れ、私たちの暮らしの現実の脅威としてその姿を現してきています。

こうした中、2050年カーボンニュートラルの達成に向け、環境問題に関心が高い層のみならず多くの県民の環境配慮行動の実践につなげる手法を探るとともに、2050年の社会において中心となって活躍する若者の環境問題に対する意識を高めることを目的として、本事業を実施しました。

事業概要

ナッジ理論を活用するなどして効果的に人々の行動変容を促す手法について、若者の視点を活かした「脱炭素社会を実現するアイデア実践コンテスト（ECOコン）」を実施しました。

参加者は、日常生活の様々な場面においてコストをかけずに温室効果ガスの排出削減につなげる仕掛けづくりについて自由にテーマを設定。そのアイデアを実践して効果を検証し、優れたアイデアを表彰しました。

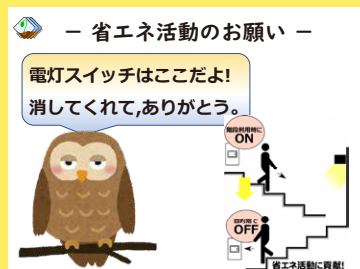
ナッジ理論とはよりよい選択をするために 小さなきっかけを作ること

ナッジ(nudge)とは、「注意を引くためにそっと突く、そっと動かす」という意味の英単語です。ナッジ理論は、強制されるよりもそれとなくしてほしいことを伝える方が、人間は動きやすいという性質に基づいています。

令和5年度
最優秀賞

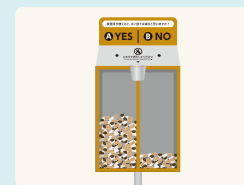
電灯の消し忘れ防止

電灯を消すと、暗闇が好きなフクロウが喜んだり、蓄光で光る星が見られたりするアイデアで消灯を呼びかけました。



レジ前の「足跡」

縦と横で列が分かれることを防ぐのと同時に、距離の目安として効果を発揮しています。



ごみ捨てで「どっち派?」

タバコの吸殻で投票するアンケートボックスを設置することで、タバコのポイ捨てが減りました。



自転車「捨て場」?

放置すると持っていかれてしまうと伝えることで、放置自転車問題を解決しました。

対象

県内の高校生、大学生、 専門学校生等

※グループ・個人とも可
※25歳までの社会人も可



アイデアの実践サポート

参加者が円滑にアイデアを実践・検証できるよう、
次の支援を行いました。

① アドバイザーによる伴走支援

② 物品の制作・印刷

アイデアの実践に当たり、必要となる物品の制作への支援
や啓発物の印刷等を行いました。

※上限額／1組20万円程度(単価3万円未満)

③ 必要経費の負担

活動施設の利用料等を負担しました。

令和6年度のコンテストの流れ

参加者の募集 …… 5月下旬～7月上旬

事業説明・研修 …… オンラインで受講

アイデアの提出 …… 7月12日まで

アイデアの選考 …… 7月18日

ブラッシュアップ会議 … 8月1日

アイデア実践 …… 8月～11月

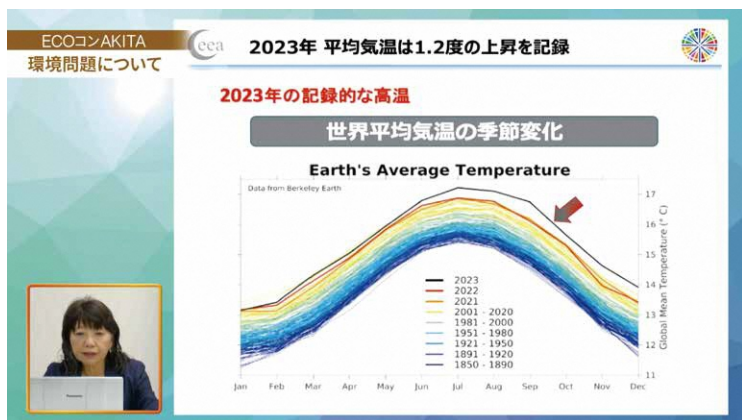
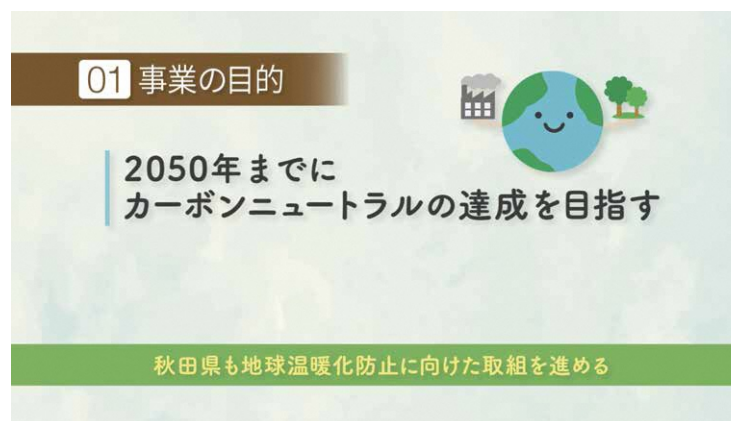
審査会・表彰式 …… 1月15日

事業説明・研修

応募者を対象に、ECOコン事業の説明動画と
アイデア企画のための研修動画をオンラインで配信しました。



事前説明動画



環境問題についての講義

一般社団法人あきた地球環境会議 福岡 真理子 様



ナッジ理論についての講義

青森大学 客員教授 竹林 正樹 様

アイデアの選考

応募のあったアイデアを選考するため、大学教授等有識者4名の選考委員による書類審査を行いました。



審査ポイント

- ・脱炭素社会実現への効果が期待できるか
- ・ECOコンの主旨に合致し、実現可能なものであるか
- ・アイデアに独創性があるか
- ・ナッジ理論が効果的に活用されているか など

審査の結果、22組の応募アイデアの中から**3組**が採用されました！

選考
通過者

- 1 国際教養大学 環境科学チーム【団体】 「ONEニコニコチャレンジ」
- 2 新屋高等学校 おおぴろ！【団体】 「子どもの食品ロスを減らそう！」
- 3 聖霊女子短期大学 聖短きっず！【団体】 「動物と一緒に脱炭素！」

ブラッシュアップ会議 (令和6年8月1日)

参加者同士が初対面。
他の参加者のアイデアを聞き、
アドバイザーからの助言をいただくことで、
自分たちのアイデアを
ブラッシュアップしました。

▼アドバイザーの方々



青森大学客員教授 竹林 正樹 様



東北環境パートナーシップオフィス・
東北地方ESD活動支援センター
鈴木 美紀子様・小泉 照様



◀アドバイザーに
直接質問して
アイデアを深めます



1



2



3

アイデア発表

- ① 国際教養大学 環境科学チームの皆さん
「学生の環境意識を高め、学内電気消費を減らしたい!」
- ② 新屋高等学校 おおぴろ!の皆さん
「食品ロス削減のため、子どもの食べ残しを減らしたい!」
- ③ 聖霊女子短期大学 聖短きっず!の皆さん
「エレベーターを使わず階段の利用を促進し、電気使用量を減らしたい!」

アドバイザーからの講評

- ① 学生が環境意識を持ちにくい環境であることに目をつけていて素晴らしい! ナッジの内容や場所を工夫してみては?
- ② 子どもをターゲットにしている面白い! どのようなナッジの活用が子どもに効果的か模索してみては?
- ③ 動物を使ったアイデアが面白い! 動物はイラストではなく動物園とコラボした写真にすると、興味をもってもらいやすいのでは?

アイデア実践

1 国際教養大学 環境科学チーム

「ONEニコニコチャレンジ」



▲ステッカーで消灯を促す

調査目的

電気の支払いが定額であるため無駄な電気使用が起きている学生寮で、電気使用量を減らすとともに、学生の環境意識を高める

活動内容

ナッジ理論を活用し、掲示物で電気使用量を可視化することで行動変容を検証

検証方法

寮のシステムで電気使用量を確認し、気温補正をした上で前年度と比較

ナッジ1

昨年の電気使用量を比較して表情が変化する大学のキャラクター「ONE」をサイネージに表示。協力を呼びかけるポスターも設置

笑顔 真顔 泣顔

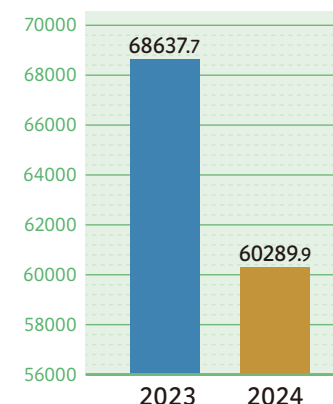
少 ← 電気使用量 → 多

ナッジ2

電気の消灯を促すステッカーを共用部電気スイッチの上に貼付



前年同時期と実施期間(気温補正後)の電気使用量比較(kWh)



結果

電気使用量が明示されていない学生寮にナッジを利用した掲示物を設置することで、電気使用量が**12.16%削減される**効果がみられた。
1か月間の取組によって 8347.8kWの電気使用量を削減することができた。

アイデア実践

2 新屋高等学校 おおぴろ！

「子どもの食品ロスを減らそう！」



▲実際の給食から残飯量を測定した

調査目的

食品ロス削減を図るため、好き嫌いの多い子どもたちの残飯を減らす

活動内容

給食の食器に子どもたちの食欲をそそる仕掛けをして行動変容を促す

検証方法

食べ終わった際の写真を撮影し、面積から残飯量を測定

ナッジ1

普段使っている食器の裏にシールを貼り、完食したらシールを剥がして専用の台紙に貼ることでコレクションができる

※シールは剥がしやすいものを作成



台紙

ナッジ2

食品ロスの影響を子どもたちに知ってもらうため、地球温暖化についての紙芝居を実施



ナッジなし期間

1日目平均…… 63.8cm²
2日目 …… 84.9cm²
3日目 …… 68.1cm²
4日目 …… 67.6cm²
5日目 …… 61.9cm²

平均 **69.5cm²**

↓ **-56.0cm²**

ナッジあり期間

1日目平均…… 44.7cm²
2日目 …… 22.7cm²
3日目 …… 0cm²
4日目 …… 0cm²
5日目 …… 0cm²

平均 **13.5cm²**

結果

- ・ナッジなし期間と比較し、**80.6%(56.0cm²)の残飯を減らす**ことができた。
- ・幼稚園を対象としたが、**気軽さから家庭でも実践**できる。

アイデア実践

3 聖霊女子短期大学 聖短きっず！

「動物と一緒に脱炭素！」



▲足跡で階段利用に誘導

調査目的

エレベーターの稼働で電力が消費され、電力を生み出すために二酸化炭素が発生することから、利用を減らすことで脱炭素につながると考えた

活動内容

ナッジ理論を活用した掲示物を貼ることによる行動変容を検証

検証方法

エレベーターを利用した人と階段を利用した人の数を計測し、ナッジを利用した時数値がどう変化したかを見る

ナッジ1

- ・動物の足跡の貼付
- ・動物に関する豆知識のポスターの掲示
- ・階段利用で健康を促進するポスターの掲示



ナッジ2

- ・ナッジ1の結果を掲示



場所	通常時	ナッジ1	ナッジ2
エレベーター	4,073人	3,951人	3,759人
階段	6,167人	6,730人	6,333人
総利用者数	10,240人	10,681人	10,092人

結果

通常時と比較し、エレベーター利用者数は、ナッジ1では**3%減少**、ナッジ2では**8%減少**した。

審査会・表彰式 (令和7年1月15日)

これまでの取組の成果を発表！
審査員が評価を行った後、表彰式を行いました。



発表時間 各組10分
質疑応答 各組10分
審査員 大学教授等有識者4名
審査基準 次の4つの項目を審査

企画力

実践・分析

実現性

プレゼン能力

最優秀賞 (1組) 5万円相当の賞品
優秀賞 (2組) 2万円相当の賞品 を贈呈！！

▼発表の様子



審査の結果、新屋高等学校 おおぴろ！の
「子どもの食品ロスを減らそう！」
が最優秀賞に選ばれました！



学生インタビュー

今回の活動を通しての感想を参加者に聞いてみました。



国際教養大学 環境科学チーム

アイデアを考え、実践できたのがとても大きな経験になりました。
実践が大変だったからこそ、効果が上がった時にやってきてよかったと思えたと思います。
私たちの活動によって学内の学生の行動変容ができたことがとても嬉しかったです。



新屋高等学校 おおびろ！

温暖化について子どもたちに分かりやすく説明することに苦労しました。
アイデアは各家庭でも実践できるので、今後も広がっていけばいいなと思います。



聖霊女子短期大学 聖短きっず！

アイデアを考えた時と、実行する時とでは、やりたいこと・やれることが違っていて本当に苦戦しましたが皆さんの協力を得て、無事に実践することが出来て良かったです。





本コンテストにご協力いただいた皆様

(敬称略)

参加者

- ・ 国際教養大学 環境科学チーム
- ・ 新屋高等学校 おおびろ！
- ・ 聖霊女子短期大学 聖短きっず！

講師・伴走支援者

- | | |
|--------------------------------|----------------|
| ・ 一般社団法人あきた地球環境会議 | 福岡 真理子 |
| ・ 青森大学 客員教授 | 竹林 正樹 |
| ・ 東北環境パートナーシップオフィス・ESD活動支援センター | 鈴木 美紀子
小泉 照 |
| ・ 有限会社エスコ | 鈴木 新右工門 |
| ・ 秋田県温暖化防止活動推進員 | 伊藤 睦子 |

アイデア選考委員・審査員

- | | |
|-----------------------------|--------|
| ・ 秋田県立大学 生物資源科学部 生物環境科学科 教授 | 木口 倫 |
| ・ 秋田大学 教育文化学部 地域文化学科 講師 | 熊丸 博隆 |
| ・ 整理収納アカデミアマスター、秋田収納美人塾 代表 | 柳瀬 わかな |

秋田県生活環境部温暖化対策課

〒010-8570 秋田市山王四丁目1番1号
TEL 018-860-1560 FAX 018-860-3881
E-mail en-ondanka@pref.akita.lg.jp



コンテストの様子は
動画でも配信しています



令和7年3月発行